

《研究課題名》

肺癌の腫瘍微小環境における腫瘍随伴マクロファージが予後に与える影響の検討

《研究対象者》

西暦 2011 年 1 月より 2016 年 12 月までに滋賀医科大学医学部附属病院呼吸器外科において、非小細胞肺癌に対して手術を受けた方。

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医科大学で既に保有している試料・情報を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。試料・情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方（亡くなられている場合はその代理人の方）におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究への試料・情報の提供を希望されない場合、あるいは、本研究に関するご質問は下記（ 8 ）の問い合わせ先へご連絡ください。

（ 1 ）研究の概要について

《研究課題名》

肺癌の腫瘍微小環境における腫瘍随伴マクロファージが予後に与える影響の検討

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日～2024 年 6 月 30 日

《研究責任者》 滋賀医科大学 呼吸器外科 川口 庸

（ 2 ）研究の意義、目的について

《意義》

肺癌は癌細胞だけでなく、腫瘍随伴マクロファージなどの癌間質細胞から成る複合体です。これまでの研究では腫瘍随伴マクロファージが癌細胞の増殖を促進していることが分かっています。しかし現在、肺癌組織中の腫瘍随伴マクロファージを観察するための免疫組織染色法が確立できていません。本研究では数種類の試薬を用いて免疫組織染色を行い、特に肺癌の進行に關与する腫瘍随伴マクロファージの免疫組織染色法を特定することで、より正確に肺癌の再発や進行を予測することができるようになります。

《目的》

本研究の目的は、肺癌の再発や進行をより正確に予測できる腫瘍随伴マクロファージの免疫組織染色法を確立することです。

（ 3 ）研究の方法について

《研究の内容》

2011 年 1 月から 2016 年 12 月に滋賀医科大学附属病院呼吸器外科で手術切除された非小細胞肺癌症例を対象とします。手術切除した肺癌組織において数種類の試薬を用いて腫瘍随伴マクロファ-

オプアウト

ジの免疫組織染色を行い、病理組織学的因子(組織型、組織亜型、分化度、静脈浸潤、リンパ管浸潤、病理病期)および、筋肉量(手術前 CT で評価)、術後再発率、生存率との関連調べます。

《利用する試料・情報の項目》

利用する資料

手術切除した肺癌組織を利用します。

利用する情報

年齢、性別、パフォーマンスステータス、CT で測定可能した筋肉量、手術術式、病理検査結果(組織型、組織亜型、分化度、静脈浸潤、リンパ管浸潤、病理病期)、術後補助化学療法、再発の有無、生存期間、死亡している場合はその死因、を診療記録から抽出します。

《試料・情報の管理について責任を有する者》

呼吸器外科 川口 庸

(4) 個人情報の取扱いについて

本研究を実施する際には、個人を特定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして、ご提供いただいた試料・情報が誰のものか分からない状態にして使用します。ただし、必要な場合に個人を特定できるように、対象となる方とその方の試料・情報を結び付けることができる対応表を作成いたしますが、この対応表は施錠できる場所で担当者によって厳重に管理されます。

(5) 研究成果の公表について

本研究の成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。公表の際には個人が特定されることがないように、十分配慮いたします。

(6) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方又はその代理人の方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。ご希望の場合には、下記(8)の問い合わせ先へご連絡ください。

(7) 利用又は提供の停止

本研究の対象となる方又はその代理人の求めに応じて、対象者の方の試料・情報を本研究に利用(又は他の研究に提供)することについて停止することができます。停止を求められる場合には、下記(8)にご連絡ください。

(8) 本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 呼吸器外科 川口 庸

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2244

メールアドレス：hqsurge2@belle.shiga-med.ac.jp